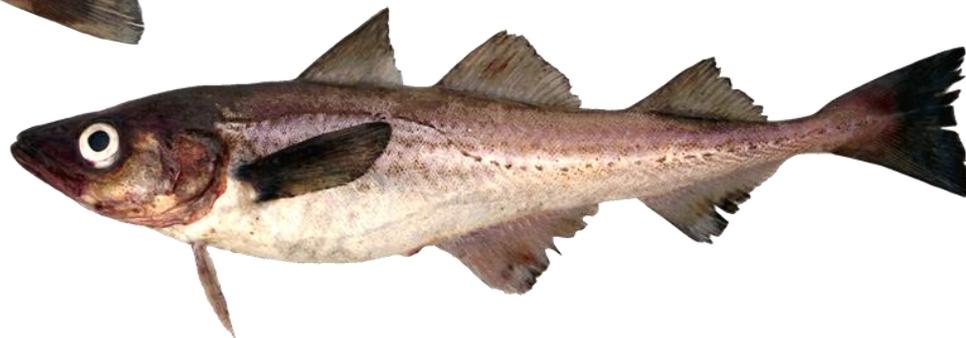
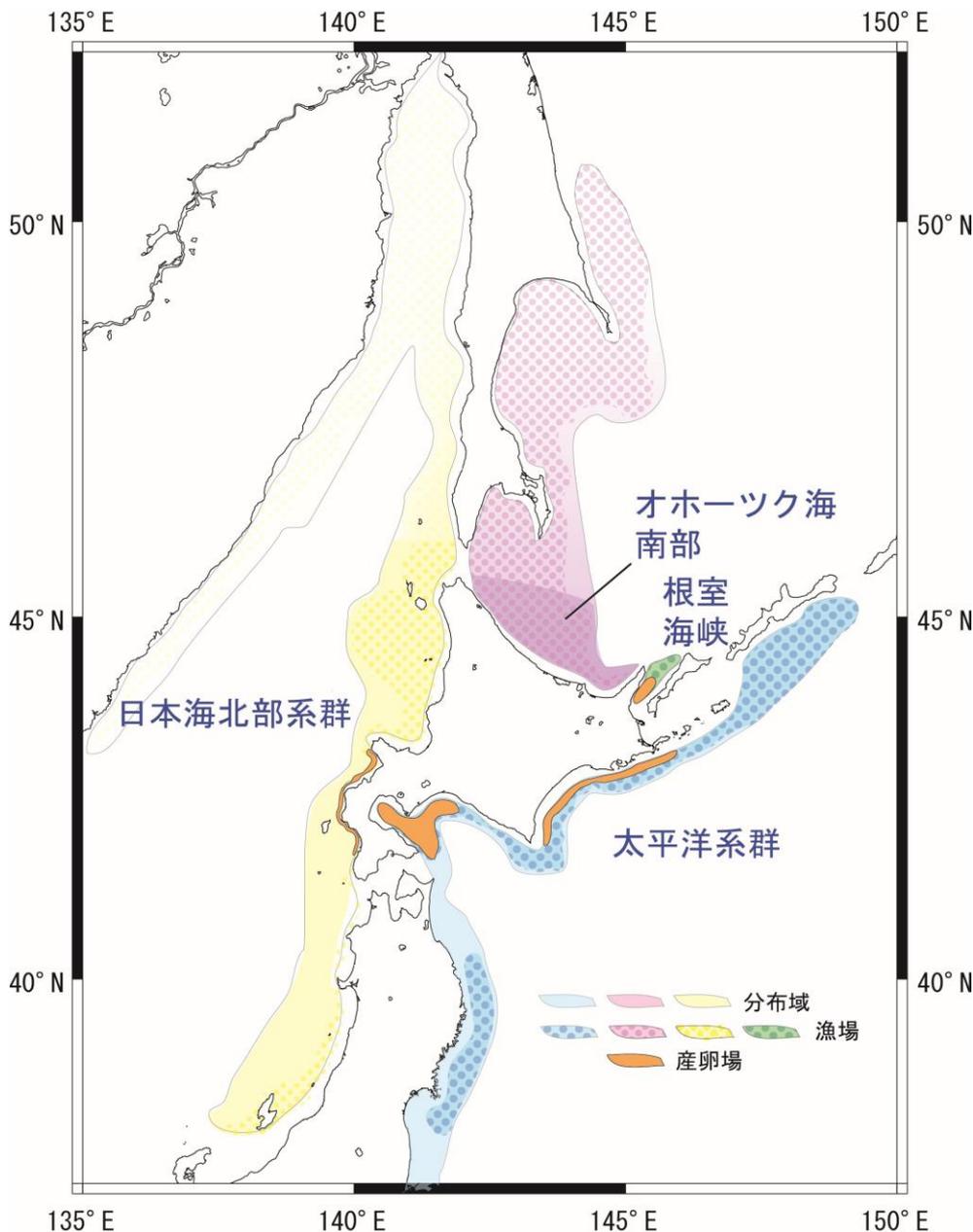




# スケトウダラ 令和元年度資源評価結果



# 生物学的特性



- 日本周辺では4つの集団に分けて資源評価
  - 日本海北部系群
  - 太平洋系群
  - オホーツク海南部
  - 根室海峡
- 寿命: 10歳以上
- 成熟: 概ね3歳から成熟開始  
5歳で大部分が成熟
- 産卵期: 冬～春季
- 食性: オキアミ類、カイアシ類など浮遊性小型甲殻類、魚類、いか類、ほか
- 捕食者: 海獣類、マダラなど魚類、共食い



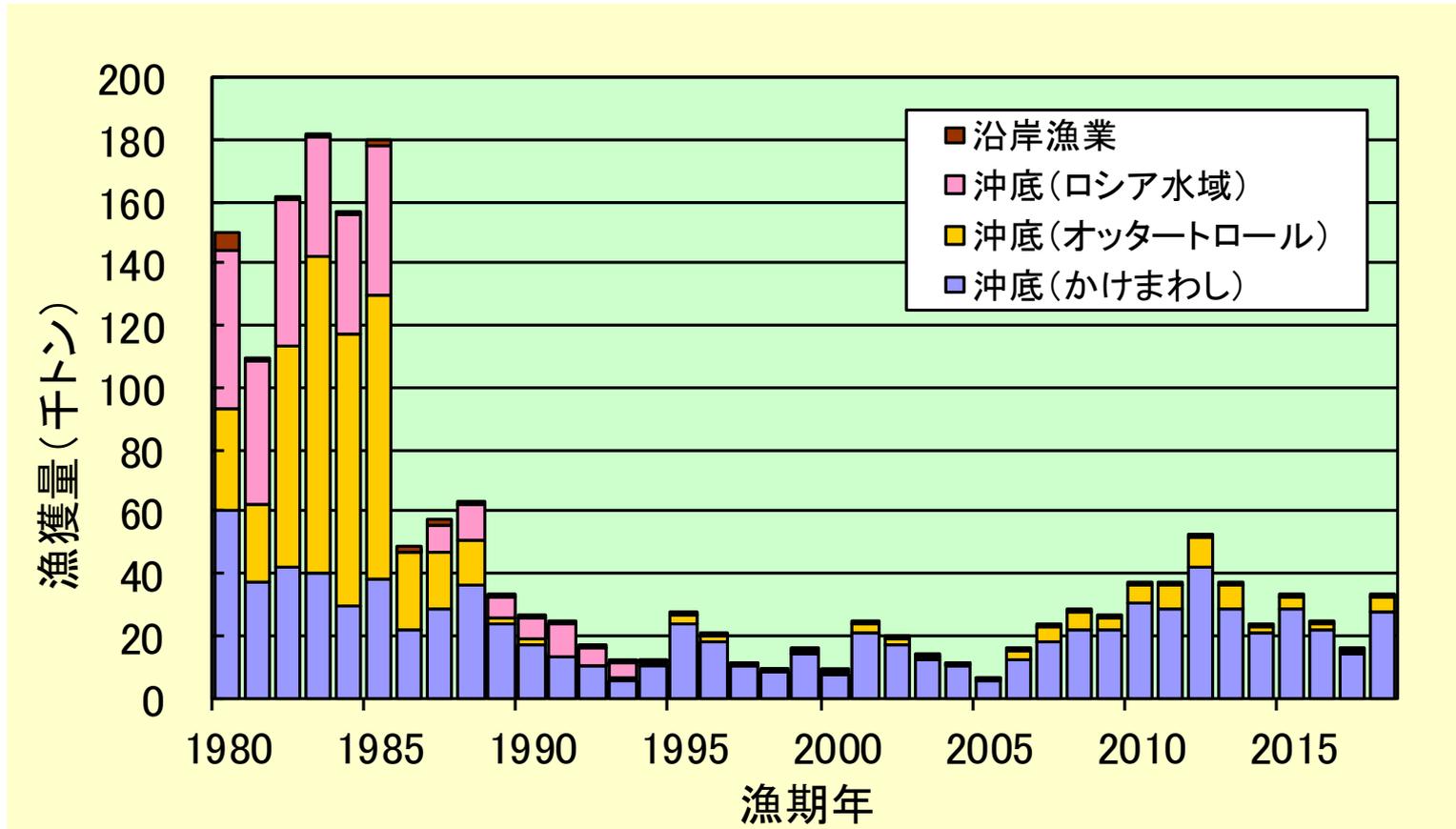
# スケトウダラ オホーツク海南部 令和元年度資源評価結果

# オホーツク海南部の生物学的特性

オホーツク海南部



- ロシアとのまたがり資源  
日本水域は分布の南端
- 現在は日本水域でほとんど再生産しておらず、他の海域で発生した集団からの一時的な来遊群が資源の主体
- 加入起源や系群構造など生態的に不明な点が多い
- 海洋環境や来遊状況により資源豊度は大きく変化する可能性が高く、推定困難



- 沖合底びき網漁業と沿岸漁業(定置網や底建網など)で漁獲
- 沖底の特にかかけまわし漁船(100トン以上)の漁獲が主体
- 2018年漁期の漁獲量 3.3万トン(前年は1.5万トン)

# 資源評価の流れ

## 【漁業データの収集・処理】

- 沖底オッタートロールの有漁操業CPUEを集計（資源量指標値）
- 沖底かけまわしの狙い操業CPUE

※有漁操業: スケトウダラの漁獲があった操業  
※狙い操業: 1日の総漁獲量に占めるスケトウダラの割合が50%を超える操業

## 【調査船調査】

- 推定現存量

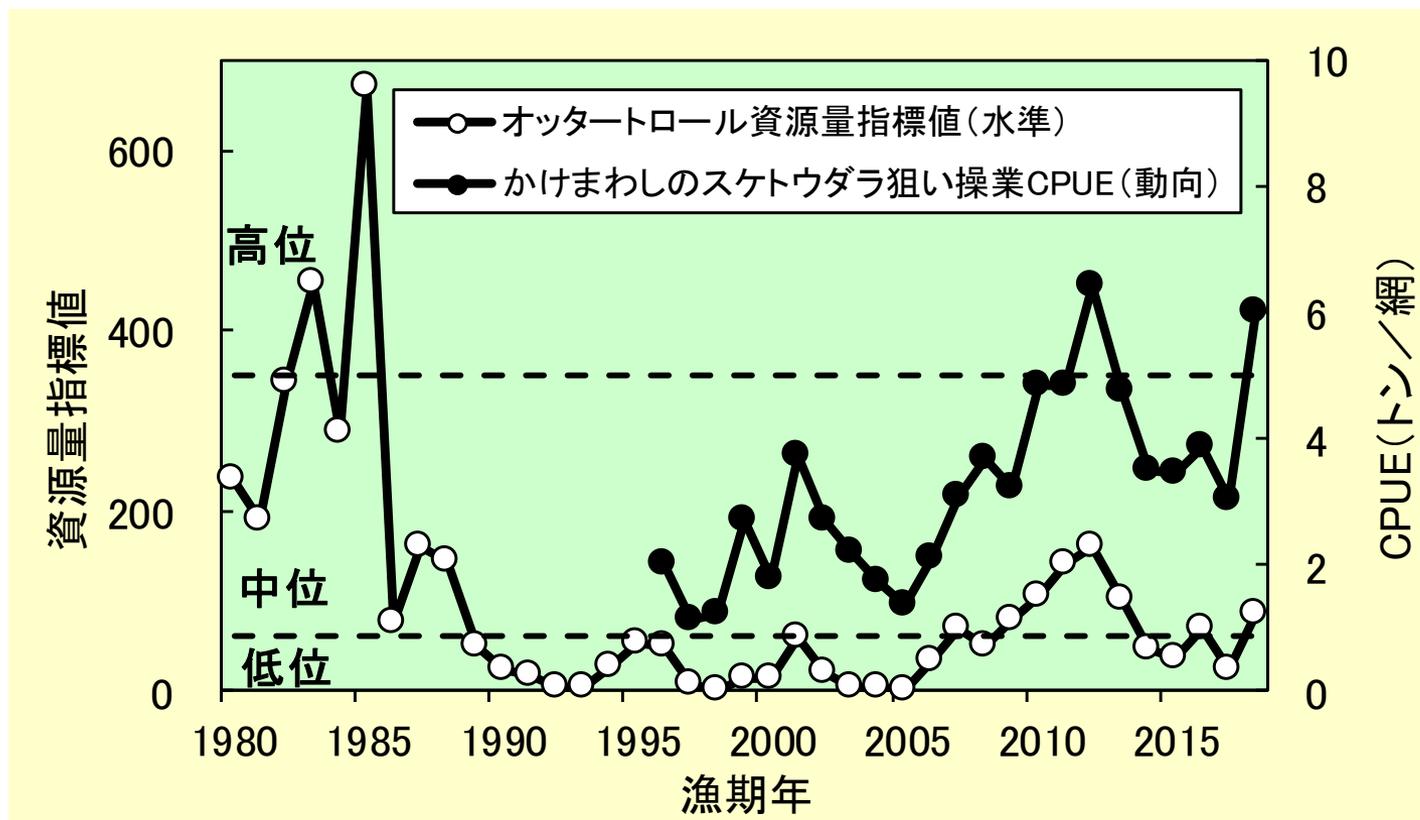
補助的情報

## 【資源水準・動向の判断】

- オッタートロールの資源量指標値により資源水準を判断
- かけまわしのCPUEにより動向を判断

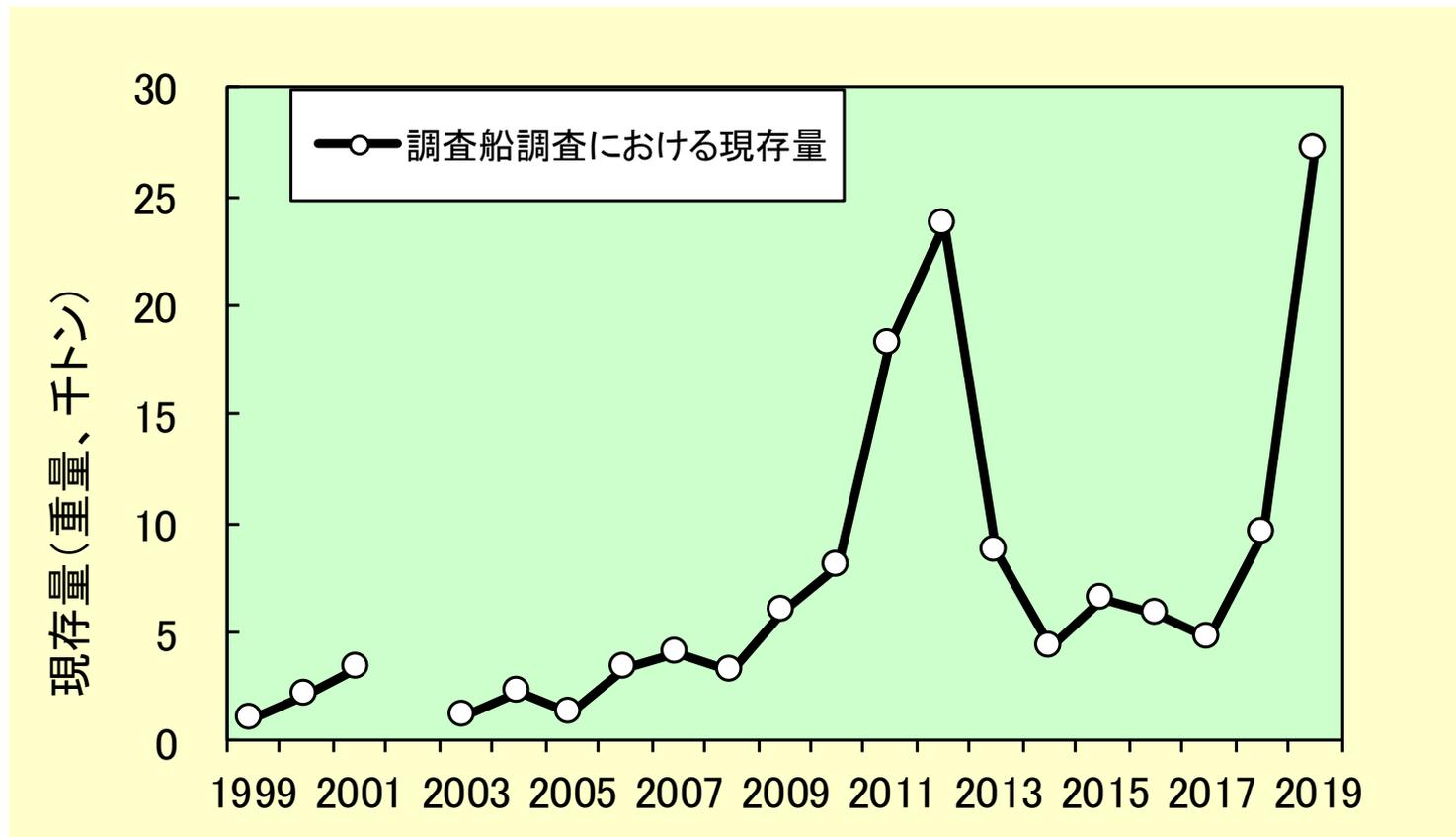
資源の状態にあわせた漁獲により資源を減少させない管理

【2020年漁期の算定漁獲量】



※水準区分 1980年漁期以降のオッタートロール資源量指標値の推移から、高位と中位の境界値を350、中位と低位の境界値を60と設定

- 資源水準：「中位」 ※オッタートロール資源量指標値の過去の推移から判断
- 資源動向：「増加」 ※ 過去5年間のかけまわしのスケトウダラ狙い操業CPUE(資源量指標値)の推移から判断



- 調査船調査による現存量は、  
2013～17年には減少傾向だったが、2018年以降は増加
- ロシア水域のTACは、  
2007～2012年に増加したのち、2019年も高い水準

# 資源評価のまとめ

- 日本水域の状況から、資源水準は中位、動向は増加
- より精度の高い資源評価のためには、ロシアにおける漁獲に関する情報が必要
- ロシア水域のTACは2007～2012年に増加傾向を示し、2019年も高い水準
- 調査船調査における現存量(重量)は2013～2017年は減少傾向であったが、2018年以降は増加に転じた

# 2020年漁期算定漁獲量

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2020年漁期 算定漁獲量 (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)	2025年漁期の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2025年漁期に 2018年漁期 親魚量を維持	2025年漁期に Blimitを維持
資源の状態に 合わせた漁獲 (1.0・Cave3-yr・ 1.25)	Target	23.9	—	—	—	—	—
	Limit	29.9	—	—	—	—	—

「1.0」 : 本資源の主体は来遊群あり、資源水準によらず1.0を適用

「Cave3-yr」 : 2016～2018年の平均漁獲量

「1.25」 : 資源量指標値の推移から算出

- ABCの算定は行わず、参考値としての算定漁獲量を掲示
- 資源の状態に合わせた漁獲を継続することによる、過度の漁獲圧を掛けない管理が妥当